

■米国：2019年4月末時点の発電設備容量、再エネが石炭火力を初めて上回る

連邦エネルギー規制委員会（FERC）は2019年6月7日、2019年4月の「Energy Infrastructure Update」月例レポートを公表した。レポートによると、4月末時点の再生可能エネルギー（水力、風力、太陽光、バイオマス、地熱）の発電設備容量の割合が21.56%（2億5,753万kW）となり、石炭火力の21.55%（2億5,748万kW）を、わずかではあるが初めて超えたことが明らかになった。再エネの発電設備は2019年初より、風力で18ユニット154万5,000kW、太陽光で102ユニット147万3,000kW、水力で4ユニット2万9,000kWが運開し、増加傾向にある。特に風力の発電設備容量の伸びは顕著であり、現在の8.25%（9,862万kW）から、今後数カ月で水力の8.41%（1億44万kW）を上回る見込みである。他方、石炭火力は2022年までに85万kWの発電設備が新たに導入予定である一方、1,300万kWの廃止が計画されている。なお、実際の発電電力量は、各電源の稼働率で異なってくるため、年間を通じた発電電力量で再エネが石炭火力を上回るとは限らないが、米エネルギー情報局（EIA）は2019年4月の再エネの発電量が石炭火力の発電電力量を初めて上回り、同5月も同様となる見通しを明らかにしている。